

第2回多様性が尊重され誰もが活躍できる まちづくり検討部会

結果概要

【「多様性が尊重され誰もが活躍できるまちづくり」推進のための位置づけ①】

○第7次宮津市総合計画<R3～R12年度> 将来構想の一部見直し

将来像実現に向けた○つの「視点」

市民協働

様々な分野で市民、各種団体、企業等と行政が協働のプラットフォームを設置し、それぞれが力を合わせ主体的に課題の解決やまちづくりに取り組んでいきます。

Society5.0

地域課題・社会課題の解決に向けてICT等の新たな技術の活用に積極的に取り組んでいきます。

SDGs(持続可能な開発目標)

国の示すSDGsの方向性に沿って、各種施策を総合的に講じていくとともに、官民連携した啓発活動の推進等により市民や事業者へのSDGsの浸透を図ります。

ウィズ/ポストコロナ

新型コロナウイルス感染症拡大後(ポストコロナ)の社会の変化を危機(ピンチ)ではなくチャンスと捉え、経済や関係人口、移住・定住の促進等様々な分野において積極的に対応していきます。

健全な行政運営

中長期的に安定した行財政運営に向け、行財政運営指針や公共施設再編方針等に基づき、経営視点に立った効率的・有効的な行政運営を進めます。



市民協働

様々な分野で市民、各種団体、企業等と行政が協働のプラットフォームを設置し、それぞれが力を合わせ主体的に課題の解決やまちづくりに取り組んでいきます。

DX推進 or デジタル活用

地域課題・社会課題の解決に向けて、デジタルを活用して直接的、間接的に市民サービスや利便性の向上に取り組んでいきます。

SDGs(持続可能な開発目標)

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、社会、経済、環境の3側面から、SDGsの17のゴールの達成を目指します。

DEI

(Diversity(多様性), Equity(公平性) & Inclusion(包括性))

一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、それぞれに合った機会を提供されることで、誰もが参加し、その人らしく活躍することができるまちづくりに取り組んでいきます。

Well-Being

宮津に住む人、関わる人、一人ひとりが、様々な人や社会との“つながり”の中で、日々、“自分らしく”生きていることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できるまちづくりに取り組んでいきます。

健全な行政運営

中長期的に安定した行財政運営に向け、行財政運営指針や公共施設再編方針等に基づき、経営視点に立った効率的・有効的な行政運営を進めます。

追加

※ローマ字・カタカナ表記がわかりにくく、工夫が必要
(有識者会議のご意見)

【第7次宮津市総合計画における「視点」】

【第1回検討部会(R7.9.17)のご意見を反映させた修正案】

「DEI・ Well-being 」の見出し

➡ 総合計画将来像実現に向けた視点

「多様性の尊重」

宮津市における定義(案)

宮津市にかかわるあらゆる人々が、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴等の様々なちがいを認め合い、多様な価値観を持つ一人一人として互いに尊重し合うことで、人権が尊重され、いかなる差別を受けることなく、多様な生き方を自らの意思で選択し、個性や能力を発揮でき、自己実現を図っていくことのできる社会づくりを進めます。

また、市民や事業者、行政が連携しながら、社会的障壁を取り除き、誰もが参加し、その人らしく活躍できる環境づくりを行うとともに、家族や地域のつながりを深め、多様な人々の交流を生み、住む人も訪れる人も互いに認め合い、支え合いながら、心豊かに、また、健やかに過ごせる多様性を生かした地域づくりを進めます。

【第2回宮津市総合計画有識者会議(R7.9.25) 結果概要】

【有識者会議でのご意見】

- 内容は素晴らしいものであり、皆が多様性を持って、お互いに認めてあげることが基本的な姿勢かと思う。
- 様々な人を受け入れると、全然違う思いを持つ人が入ってきた時に問題が起こるということが懸念されるので、その辺も議論されてはどうか。
- 多様性という言葉の中には、宮津のまちの歴史や伝統、アイデンティティといったものも尊重されるということが前提としてあると思う。その上で、いろんな立場や考え方、価値観を持っている方とうまくコミュニケーションを図りながら、まちの活力にしていこうというような方向性をしっかりと踏まえた議論も必要ではないか。
- 社会的な公正性がかなり強調されたような内容になっており、これは非常に大事な点だと思うが、そこからもう一歩進めて、多様な人材が交流したり、意見交換をしたりすることで生まれるイノベーションをまちづくりの活力にしていこう、多様な立場や考え方の人たちが加わったことによって初めて出てくる意見とか、まさにイノベーションというものの源泉になり得ると思うので、そういうことも含めて、多様性を訴えていくのかどうかということ、専門的な観点から、部会の方で議論をしていただきたい。
- 市としてはどこまでを望むのかというスタンスも問われると思うので、両面から部会で検討いただいて、有識者会議にお返しいただきたい。

【第7次宮津市総合計画における「視点」】

【第1回検討部会(R7.9.17)・第2回有識者会議(R7.9.25)のご意見を反映させた修正案】

「DEI・Well-being」の見出し

「多様性の尊重」

宮津市における定義(案) ※緑字が第2回有識者会議後の修正箇所

様々な偏見や差別、アンコンシャス・バイアスは、地域の住みづらさや働きにくさ、また、個人の生きにくさ等につながっていることから、みんなが活躍する豊かなまちを共に創るには、宮津市に関わるあらゆる人々が違いを認め合い、お互いを尊重しあうことが必要です。

宮津市においては、本市に関わるあらゆる人々が、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴等の様々なちがいを認め合い、多様な価値観を持つ一人一人として互いに尊重し合うことで、人権が尊重され、いかなる差別を受けることなく、多様な生き方を自らの意思で選択し、個性や能力を発揮でき、自己実現を図っていくことのできる社会づくりを進めます。

また、市民や事業者、行政が連携しながら、社会的障壁を取り除き、誰もが参加し、その人らしく活躍できる環境づくりを行うとともに、家族や地域のつながりを深め、多様な人々の交流を生み、住む人も訪れる人も互いに認め合い、支え合うことで、心豊かに、また、健やかに過ごせる多様性を生かした地域づくりを進めます。

【第2回検討部会 結果概要】

◆日 時 令和7年10月15日(水) 19:30~20:35 ※オンライン

◆出席者 多様性が尊重され誰もが活躍できるまちづくり検討部会委員 5名 ※全員出席

【部会でのご意見】

- ・市民が見た際に、アンコンシャス・バイアスの意味が分かりにくいので、分かりやすくすべき。
- ・人種・国籍とあるが、国籍だけでいいのではないか。
→1つの国籍の中でも人種が違う人がいるので、両方必要
- ・LGBTQ+の全てを認めてほしいとは思わないが、正しく知ってもらうことが多様性の尊重に結び付く。パレードを見て、気持ち悪いと思うのも多様性。知って、認め合える世の中にしていくことが大事
- ・頑張っている人を見て、チャレンジが無理だと思っていた人がチャレンジでき、協力し合って、地域が盛り上がっていくことがイノベーションかなと思う。多様性を尊重し合って、皆が手をつないで、盛り上がっていく、そういうイノベーションなら、多様性を感じ取れるまちになると思う。
- ・観光分野では、身体の不自由な方に対する受入体制はできているが、それ以外の社会的障壁への対応の必要性はリサーチできていないし、対策も不十分。そういう点での対応ができれば、天橋立は優しい観光地になると思う。そういうことも重要だと思う。
- ・外国人の受入に関しては、路線バスのアナウンスや表記が日本語だけとなっている。
- ・いろいろな人が差別されないことは、人道的な面から必要なだけでなく、いろいろな人が話しやすくすることで、新しいことが生まれる。いろいろな意見の人がいる方が、より新しい発想やり方、新たな可能性が生まれると思う。だから、多様性は社会にとって大事だと思っている。

【第7次宮津市総合計画における「視点」】

【第2回検討部会(R7.10.15)のご意見を反映させた修正案】

「DEI・Well-being」の見出し

「多様性の尊重」

宮津市における定義(案) ※紫字が第2回検討部会後の修正箇所

様々な偏見や差別、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は、地域の住みづらさや働きにくさ、また、個人の生きにくさ、多様な人々による活発な意見交換が阻害されることによる新たな活動の抑制等につながることから、みんなが活躍する豊かなまちを共に創るには、宮津市に関わるあらゆる人々が違いを認め合い、お互いを尊重しあった上で、自分らしく生き、自由に意見を交わし合える環境をつくる必要があります。

宮津市においては、本市に関わるあらゆる人々が、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴等の様々なちがいを認め合い、多様な価値観を持つ一人一人として互いに尊重し合うことで、人権が尊重され、いかなる差別を受けることなく、多様な生き方を自らの意思で選択し、個性や能力を発揮でき、自己実現を図っていくことのできる社会づくりを進めます。

また、市民や事業者、行政が連携しながら、社会的障壁を取り除き、誰もが参加し、その人らしく活躍できる環境づくりを行うとともに、家族や地域のつながりを深め、多様な人々の新たな交流が生まれ、住む人も訪れる人も互いに認め合い、支え合い、心豊かに、また、健やかに過ごせる多様性を生かした創造性や活力のある地域づくりを進めます。

【第7次宮津市総合計画における「視点」】

【最終案】

「DEI・Well-being」の見出し

「多様性の尊重」

宮津市における定義(案) ※紫字が第2回検討部会後の修正箇所

様々な偏見や差別、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は、地域の住みづらさや働きにくさ、個人の生きにくさ等につながります。

そのため、みんなが活躍する豊かなまちを共に創るには、宮津市に関わるあらゆる人々が違いを認め合い、お互いを尊重しあった上で、自分らしく生き、自由に意見を交わし合える環境をつくる必要があります。

宮津市においては、本市に関わるあらゆる人々が、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴等の様々な違いを認め合い、多様な価値観を持つ一人一人として互いに尊重し合うことで、人権が尊重され、いかなる差別を受けることなく、多様な生き方を自らの意思で選択し、個性や能力を発揮でき、自己実現を図っていくことのできる地域づくりを進めます。

また、市民や事業者、行政が連携しながら、社会的障壁を取り除き、誰もが参加し、その人らしく活躍でき、心豊かに、健やかに過ごせる環境づくりを行うとともに、家族や地域のつながりを深め、住む人も訪れる人も互いに認め合い、支え合うことで、新たな交流を生みだし、創造性や活力のある地域づくりを進めます。